



『文武両道』

宮崎県
朱雀館道場
小学6年生

上米良 凜

私は剣道を始めてもうすぐ3年になります。剣道を始める前は、体も弱くて足もおそく、声も小さかったです。そして、初めて試合に出させてもらった時は、何回も飛ばされて大泣きしたのを覚えています。

今では、東京大会や玉竜旗などいろいろな試合に出させてもらっています。東京大会でも大きな男の子に飛ばされて、面ひもがほどけてしまいました。面ひもを結ぶ時、気持ちを整えながらゆっくりと結びました。そしてきゅっとしめながら気合を入れ、大きな声を出して向かっていったら、一本取り返すことができました。強い気持ちで一本取れたのは、先生達や先ばい達がきびしいけい古をつけてくださったからだと思います。

けい古の中でも一番きついのは、足さばきです。先生から「左足を出すな」とか「小さく速く」と言われます。でもこの2つに気をつけて真面目にやっているから、学校の徒走でも1位になれるくらい足が速くなりました。真面目にやればなんでも上達することを、剣道で学びました。

また、先生から「剣道は声だけでも相手に勝て」と言われます。この前、学校で運動会のリーダー決めがありました。それは大声対決でした。私はいつもけい古でやっていることを全て出しきりました。いつもおとなしい私が大きな声を出したので、みんなびっくりしていましたが、投票の結果、一番でリーダーになることができました。毎日のけい古のつみ重ねが大事なんだという事を学びました。

そして、寒い時も暑い時もけい古をするのは心と体をきたえるためだと思います。寒い時は、暖かい家の中にいたいけど強くなるために、毎年寒げい古にいきます。冬は高校生や大学生の先ばいがたくさん来てくれるので、やる気が湧いてきます。けい古前は寒さで体が固まって動けませんが、けい古が終わると夏のように暑くなります。また暑い時のけい古は、蒸し蒸しするし汗もたくさんかくし苦しいです。それでも夏のけい古をがんばる理由は、外の試合などの暑さや弱い自分に負けたくないからです。だから寒さや暑さや、自分の弱さにも負けない心と体を身につけられるように、取り組んでいきたいです。

私は書道もしています。去年は全国剣士書道展で「剣道時代賞」をもらいましたが、今年は、一番上の「剣道連盟会長賞」をとれるように今も日々練習しています。書道は「静」で剣道は「動」で真逆ですが、書道も自分との戦いで姿勢を正して集中してやるところが剣道に似ていると思います。だから書道も剣道に例えて教えてもらっています。これからも集中力を高められるように、がんばりたいと思います。

私は剣道が好きです。そのけい古に行けるのは、お父さんお母さんが道場に連れていってくれるからです。また、道場のみんながいなかったらけい古ができません。けい古をする仲間がいないと、切磋琢磨し合えず、上手になりません。そして剣道が好きになっていなかったかもしれません。だから私は、剣道も先生もみんなも大好きです。どんな時も全ての人にありがとうと感謝の心を忘れてはいけないと思っています。

最後に、私の夢は、警察の科学そうさ研究所に入ることです。そのためには、ちかいの言葉にある

「根性を養う」と「学業と剣道に精進し」をがんばらなくてはなりません。剣道に行って時間がないから勉強ができないと言われたくないので、勉強は授業中に全部覚えるようにしています。そして家でも、短い時間で集中してやるようにしています。だから今年書き初めで「文武両道」と書きました。今のうちから、根性を養ってどんな時もあきらめない強い心を持ちたいです。そして朱雀館道場の剣士としてのほこりを持って、文武両道で夢を叶えたいと思っています。